

平成 24 年度 第 6 回コンクリート常任委員会議事録

日時：2013 年 2 月 15 日（金）14 時～16 時 45 分

場所：土木学会講堂

出席者：二羽委員長，下村幹事長，綾野，岩波，小林，佐藤(靖)，久田，丸屋の各幹事，石橋，上田，宇治，内田，金津，鎌田，岸，黒田，堺，佐藤(勉)，島，田中，中村，西垣，信田，前川，宮川，睦好，横田の各常任委員

配付資料：

- 6-0 平成 24 年度第 6 回コンクリート常任委員会議事次第
- 6-1 平成 24 年度第 5 回コンクリート常任委員会議事録案
- 6-2 2013 年制定 コンクリート標準示方書 [規準編] の概要
- 6-3 委員会名：塩害環境の定量評価に関する研究小委員会
- 6-4 [土木学会重点] がれき有効利用・報告書・目次案
- 6-5 [基本原則編] 制定資料 (案)
- 6-6 設計編改訂資料
- 6-7 [施工編] の改訂資料について
- 6-8 平成 24 年度コンクリート委員会一般会計予算 (案)
- 6-9 土木学会創立 100 周年記念出版企画書
- 6-10 公益信託「土木学会学術交流基金」ジョイントセミナー助成申請書
- 6-11 ISO 対応特別委員会
- 6-12 社会インフラ維持管理検討タスクフォース (仮称) の設置について (案)
- 6-13 平成 25 年度全国大会開催に伴う研究討論会企画募集について
- 6-14 2012 年制定 コンクリート標準示方書発刊に伴う講習会のご案内
- 6-15 コンクリート構造物の補修，補強，アップグレード論文報告集 第 13 巻
- 6-16 CALL FOR PAPERS
- 6-17 「2012 年制定コンクリート標準示方書」発刊に伴う講習会

議事：

1. 平成 24 年度第 5 回コンクリート常任委員会議事録の確認【資料 6-1】

久田幹事より，第 5 回コンクリート常任委員会議事録案が説明され，以下の修正の後，承認された。
・ 3 ページの堺委員のコメントを削除する。

審議事項：

1. 2013 年制定示方書規準編の目次について【資料 6-2】

規準編主査 鎌田委員より，平成 25 年 12 月発刊予定の示方書規準編目次案が説明された。以下に，主たる説明，コメント，質疑を示す。

- ・ 平成 25 年 12 月の発刊を目指し作業を進めており，土木学会規準に関しては，新規掲載 18 規準，改訂 78 規準，削除 24 規準，関連規準に関しては，新規掲載 5 規準，改正 5 規準，削除 3 規準，JIS 規格に関しては，新規掲載 10 規格，改正 46 規格，削除 2 規格である。(鎌田)
- ・ 冊子体をスリム化するために，用紙の薄肉化，軽量化を図る。(鎌田)
- ・ 価格はどうなるのか。(岸)
→ 10000 円を超えないようにする予定である。(鎌田)
- ・ 発刊のアナウンスはどうするのか。(久田)
→ JCI の関連するドキュメントには 2013 年に出版予定と明記されており，ある程度効果的なアナウンスとなっている。(鎌田)
- ・ JIS 規格の掲載が価格を引き上げているが，ユーザー側の使いやすさ考えると JIS 規格は載せる必要がある。この点を出版委員会でしっかり説明したい。(丸屋)

以上の審議の後，意見があれば 3 週間以内に鎌田委員に送付すること，問題がなければそのまま準備を進めていただくことが確認された。

2. 3種委員会の設置について【資料 6-3】

下村幹事長より、3種委員会の設置が付議された。主たる説明、コメント、質疑を以下に示す。

- ・ 委員会名は、「塩害環境の定量評価に関する研究小委員会」であり、委員長候補は佐伯氏（新潟大学）、幹事長候補は富山氏（琉球大学）である。これまでの塩害に関わる第3種委員会との差異は、「塩害環境の評価」に焦点を絞っているところにある。（下村）
- ・ 結構な取り組みかと思う。土木学会以外の方が参画しやすいように配慮してほしい。（宮川）
- ・ 現在、関連する委員会は活動しているのか。（堺）
→先日、武若委員が小委員長を務めた「コンクリート中の鋼材の腐食性評価と防食技術研究小委員会」が終了した。（下村）
- ・ 汀線からの勾配や地形の影響を検討してほしい。（宇治）

以上の審議を経て、委員から出されたコメントを委員長候補の佐伯氏に伝えることとし、委員会の設置が認められた。なお、略称は348委員会となる。

3. 震災がれきの処分と有効利用に関する調査研究小委員会の活動期間延長について

久田委員より、久田委員が委員長を務める「震災がれきの処分と有効利用に関する調査研究小委員会」では、これまでに、石巻市の現地視察、石巻がれきを用いての各種検討を進めてはいるが、福島県では除染作業が行われておりがれき処理が進んでいないこと、また、この先1、2年で新しい技術が整備されることが予想されており、現時点で委員会成果をまとめることが難しいので、もう1年間、委員会活動を延長したいとの提案があった。主たるコメント、質疑を以下に示す。

- ・ がれきの処分と活用が進まない理由は、被災自治体のニーズと技術を持っているゼネコンのシーズとのマッチングが上手くいっていないからではないか。（堺）
→現在、被災地では骨材や生コンが不足している。がれきを骨材として使う方法があるが、自治体が縦割りであり上手く情報が伝わらない。ここに大きな問題があると考えている。（久田）
- ・ 引き続き、地盤工学委員会の方々と共同して活動するのか。（二羽）
- ・ そうしたいと考えている。（久田）
- ・ 重要な研究課題を扱っており、二種委員会として活動を継続してほしい。（二羽）
- ・ 5章では「課題の整理」だけではなく、課題解決に向けた提案がなされるのか。（宮川）
→提案を盛り込みたいと考えている。（久田）
- ・ コンクリート委員会として、がれきを活用できるということを技術的に示す必要があるのではないか。（堺）
→そのように考えている。悩ましいのは品質の問題である。震災がれきの品質は、JIS規格が再生骨材に求める品質を満足しない。このギャップをどのように解決するかが難しい。（久田）
- ・ 手をかけないで、がれきをそのままコンクリートの骨材として使えない。類似の検討を行っているので、情報を提供したい。（堺）

以上の審議を経て、二種委員会として1年間活動を継続することが承認された。

4. 示方書改訂資料の審議

(1) 基本原則編【資料 6-5】

信田副主査より、基本原則編制定資料の説明があった。以下に主たる説明、コメント、質疑を示す。

- ・ 8章構成であり、制定の経緯、考え方、制定過程における議論、を取りまとめたものとなっている。また、コンクリート構造物の計画・施工・維持管理における環境配慮指針作成に向けた考え方とした資料を、参考資料として残した。（信田）
- ・ 基本原則編の最終版はどうなっているか。（堺）
→12月24日付けの堺委員のご意見を運営委員会ですっかり審議し、取り入れられるものはかなり取り入れたと理解している。（信田）
- ・ 26ページの「7.5 基本原則編の制定にあたっての主な審議内容」に記述されていることは、作成に携わった委員の主張が書かれているものであり、審議の客観性が確保されていないのではないかと。次に、他の性能に比べ環境性の位置づけが低く、これでは、コンクリート委員会は環境性をネガティブに捉えているのではないかと印象を与えてしまうのではないかと。環境性は安全性のように設計・照査における重要な性能であるとのポジティブなメッセージを出した方が良いのではないかと。また、fibの内容に関しては、最新バージョンに基づき記述してほしい。（堺）
→まず、2つ目の指摘に対してであるが、環境性の重要性は明確にしており、従来の示方書より大きく進んでいると考えている。次に、ひとつ目の質問に対しては、基本原則編は、コンクリート委員会としての大きな合意形成の成果であること、また、その合意形成過程の議論が改訂資料

に両論併記の形になっていることから、客観性は確保されていると考えている。ただし、審議内容という表現は再検討する。fibに関する記述に関してはそのようにしたい。(信田)

- ・ 検討の経緯の中で示方書連絡小委員会が紹介されているが、二羽委員長が小委員長を務めた1期目の活動についても言及した方が良い。(岸)

→そのようにする。(信田)

以上の審議を経て、出版が承認された。なお、意見があれば信田委員に送付し、時間が間に合う範囲で対応していただく。

(2) 設計編【資料 6-6】

下村幹事長より、設計編改訂資料の全体概要の説明がなされ、また、前川委員から、この改訂資料は、これまでに示方書改訂小委員会や常任委員会に提出してきた資料をまとめたものであること、また、広島大学 佐藤良一先生が設計編部会に提案した長期たわみの計算方法は、未だ公表されていない、オリジナルの研究成果であることから、これを改訂資料には載せず、まずは、論文として出していただくこととしたことが補足された。

以上の説明に対し特に質問やコメントはなく、出版が承認された。

(3) 施工編【資料 6-7】

施工編副主査 坂田氏より、施工編改訂資料に関する説明がなされた。以下に主たる説明、コメント、質疑を示す。

- ・ 改訂の経緯や理由を示し、示方書内で情報が不足する箇所に対しては図表や参考文献を示し、これまで施工担当者からの質問が多数ある箇所に対しては特に情報の充実を図るなどした。また、改訂にはいたらなかったが、貴重な討議がなされた事項に関しては、改訂資料に残すようにした。(坂田)
- ・ 新しく開発された材料の情報は書かれているか。(宇治)
→新しい材料については紹介していない。(坂田)
- ・ 施工編の数値(養生日数)の根拠は書いてあるのか。数値の説明があるべき。(丸屋)
→そのとおりでありそれを目指したが対応が難しかった。書けなかったところは、次回の宿題と考えている。(坂田)
- ・ 書式がライブラリー所定のものになっていない箇所がある。(下村)
→確認し修正する。(坂田)

以上の審議を経て、出版が承認された。

報告事項:

1. 平成 24 年度予算状況【資料 6-8】

下村幹事長より、コンクリート委員会の予算の現況について説明があった。

2. 土木学会 100 周年記念出版企画の申込みの報告【資料 6-9】

丸屋幹事より、常任委員より特に提案がなかったもので、幹事会で企画し提案したことが報告された。以下に主たる説明、コメント、質疑を示す。

- ・ 出版事業を支えているコンクリート委員会が 100 周年事業においてもしっかり貢献すべきだと認識し、一般の方にも読んでいただけるものを出したいと考えている。なお、出版委員会としては、出版後の採算はとわれないが、出版までの経費は用意しない。採択されたら、コンクリート委員会としては、小委員会を立ち上げて準備し、是非、良いものにしたい。(丸屋)
- ・ 採用されれば、2 種委員会として準備したい。メンバーはこれからだが、丸屋幹事が中心となる。(二羽)
- ・ 100 周年事業に関連してお願いがある。未来の土木技術コンテストがあるので若い人には是非応募を呼び掛けてほしい。(宮川)
- ・ 対象読者の中にセメントや生コンの選択肢がない。加えてほしい。(田中)
→そのように申し入れする。(丸屋)
- ・ 一般向けか専門家向けかがわからない。(石橋)
→企画側から、示方書の変遷を出版してはどうかと提案されたが、あまりにも対象が絞られるので今の案にした。これから具体的に考えていくのでこのように進めさせていただきたい。(丸屋)

3. 平成 25 年度土木学会ジョイントセミナーの申込みの報告【資料 6-10】

中村委員より、以下の報告と依頼があった。

- ・ 昨年はハノイでジョイントセミナーを行った。当初の予定通り、今年はホーチミンでのセミナーを予定している。ホーチミンでのセミナーの内容で国際交流助成に応募していたが、先日内定の連絡があった。
- ・ 委員の方々には講師等の協力をお願いさせていただきたい。なお、昨年は、JETRO のサポートをいただいたが、今年は、示方書を全面に出した形にしたいので、国土交通省と共同で開催するかどうかはわからない。

4. 土木学会 ISO 対応特別委員会への委員推薦の報告【資料 6-11】

二羽委員長より、横田委員から依頼があり、渡辺博志委員を委員として推薦した旨が報告された。

5. 社会インフラの維持管理検討 Task Force への委員推薦の報告【資料 6-12】

二羽委員長より、次期会長橋本鋼太郎氏から依頼があり、内田委員を推薦した旨が報告された。

6. 平成 25 年度土木学会全国大会研究討論会の企画提案について【資料 6-13】

下村幹事長から、これまでに、堺委員から環境に関する討論会の提案があったこと、幹事団としては、社会インフラの安全・安心に関する討論会を考えていることが説明された。締切りが 3 月 15 日とまだ時間があるので、今月末までに是非提案してほしい旨が依頼された。なお、最終的には幹事会で検討し提出することになった。

7. 重点研究課題（研究助成金）への応募について

下村幹事長より、今回は応募しなかったとの報告があった。コンクリート委員会としては、昨年採択されたがれき処理に関する検討に腰を据えて取り組みたいので、応募を見送ることにしたとの理由が説明された。

8. 報告会・講習会開催案内

岸委員から、資料 6-14 を用いて示方書講習会の予定が説明された。また、各支部の開催予定が決まれば、その情報を追加するので教えてほしい旨が依頼された。なお、アンケートにご協力いただいた方は郵送で、過去の講習会に参加した人へはダイレクト E メールを送る予定であることが説明された。

また、吉田賞選考委員会幹事長の中村委員より、吉田徳次郎博士記念基金への寄付に対するお礼があった。

9. その他

(1) 小林幹事より、アップグレードシンポジウムの申込み依頼があった。【資料 6-15】

(2) 宮川委員から、学術的な視点よりも、企業の最新の技術を紹介するという視点に比重が置かれている NACE（アメリカ腐食学会）主催の国際会議への参加と周囲の方々への紹介が呼び掛けられた。なお、この会議は、同時通訳が付き、発表だけが求められる会議である。【資料 6-16】

(3) 綾野幹事から、示方書講習会の中国支部講習会を、広島、岡山、米子、山口の会場で開催するとの報告があった。【資料 6-17】

最後に、二羽委員長より以下の挨拶がなされた。

本日で 24 年度の常任委員会が終了する。皆様のお陰で、1 期 2 年間、コンクリート委員会委員長を務めさせていただくことができ、また、この 3 月には新しい示方書を世に出すことができた。思い返せば、津波の被害から始まり、先日は、笹子トンネルの事故があり、社会インフラの安全問題がクローズアップされた 2 年間であり、コンクリート委員会の重要性をひしひしと感じている。

1 期目が終了する本日、コンクリート委員会を一度解散し、新年度から新しい体制でスタートさせたいと考えている。

委員の皆様のご貢献に衷心からお礼申し上げます。

以 上